

カルメル 霊性センターニュース



宇治カルメル会修道院 聖堂



2017年9月



334号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	19
東京	20
名古屋	23
京都	24
北陸	28
諸所の企画案内	29
年間購読(郵送)のご案内	42
編集後記	43

心の泉





第三卷

第六章 愛する者への試練

4 感じることと同意することは別

さまざまで奇妙な想像にも驚かず、あなたの決心と、神への正しい意向とをし
っかり保ちなさい。時に脱魂だっこんに陥るかと感じ、すぐ後で、元の平凡さに戻るとし
ても、それは必ずしも幻覚ではない。それは自分の意思によるものではないから、
それを望ましいと思わず、むしろそのために苦しみ、それを嫌い、遠ざけようと
すれば、それはあなたにとって損ではなく功德である。

5 戦いには賢明さが大切

人間の古くからの敵は、あなたの徳への望みをさまたげ、信心業、すなわち、
聖人への崇拜、受難の敬虔な記念、罪の救霊的な回想、心をよく保とうとする努
力、徳に進もうとする固い決心などから、あらゆる方法をもって、あなたを遠ざ
けようとする。あなたに不安と恐れの念を起こさせ、祈りや聖なる本を読むこと
から遠ざけようとして、さまざまな邪念を起こさせる。あなたが謙遜に告白する
ことも敵の気に入らず、できれば聖体を拝領させまいとする。敵はまた、あなた
をおとしいれようとして罾を仕掛けるが、それを信じるな、そのほうに目を向け
るな。

あなたの邪念の責任を彼に負わせ、そして言え。汚れた霊よ、私から遠ざかれ、
あわれむべき者よ、恥じ入れ。そんなことを私にささやくおまえは、なんと不潔
な者であろう！罪深い誘惑者よ、私から去れ、私の内にはおまえの入るべき場所
がない。ただ勇ましい戦士として、イエスが私と共におられる。おまえは恥辱を
受けるであろう。私はおまえに服従するぐらいなら、もっと苦しみを受けて死ぬ
ほうを選ぶ。口を開くな、だまれ、罾を張っても、私はもはやその手には乗らない。

「主こそ私の光、私の救いである。私には恐れるものがない。」(詩篇27・1)。「武装
した軍隊の攻撃にあっても、私は恐れぬ」(詩篇27・3)。主は私を助け、私を救っ
てくださると。

17-9月

“聖なるもの” になるように

呼ばれています

あなたが必要としているのは
自分の殻から出させてくれ、
自分よりさらに高いものに連れ去ってくれる
一つの理想なのだと思います。
それはただ一つ
神、唯一の理想、真の理想これ以外ありません。

～三位一体のエリザベット～ *



十字架のもとに立つ母マリア



渡り鳥の旅立ち

高く澄み渡った青空に赤とんぼが舞
っていた九月はもう思い出のうちだ
けになってしまったようで、まだ猛暑
の夏が続いています。・・・こうし
て「時」は過ぎ去ってゆくことだけは
確かなことです。今月も典礼のリズム
に助けられて、過ぎゆくものの

中で常に過ぎ去らないものを見すえて

日々生きていけますように。九月八日マリア様の誕生日、十四日十字架称賛、そ
の翌日十五日は悲しみの聖母、三十日はテレーズ命日。



主よ、

十字架上で命をささげられたあなたの愛を悟らせてください。
兄弟と苦しみや心の痛みを分かち合い、惜しみなく自分を与える
ことができますように。 ～十字架称賛の日の教会の祈り～

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

* 『いのちの泉のほとりにて』伊従 信子 ドンボスコ新書

創造主への賛美（1）

くのり
九里 彰

創造主というと、被造物という言葉が思い浮かび、哲学神学的概念と捉えられがちである。しかし、これはきわめて単純素朴な洞察を表しているのではないだろうか。

主は泉を湧き上がらせて川とし、山々の間を流れさせられた。
野の獣はその水を飲み、野ろばの渴きも潤される。水のほとりに空の鳥は住みつき、草木の中から声を上げる。（詩 104・10-12）

自然や宇宙が原子と原子が衝突し、その結合や分離で、偶然に出来上がったのではなく、それらを創造され、万物を一瞬一瞬支えられておられるお方がおられるということ。これは、私たち人間の頭では捉え切れない神秘だと言ってよいのではないだろうか。

初めに、神は天地を創造された。地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。「光あれ」。こうして、光があった。（創 1・1-3）

戦後、コロンビア大学で十年以上も特別講義をされた鈴木大拙氏は、ある時、聴衆に向かってこう質問されたそうである。「この世は神様が出て来られて、そして世の中を創造されたというけど、神様はそれ以前はどこにおられたんですか」。「何をしておられて、どこにおられたんですか。皆さん、だれかわかった人がいたらちょっと立ち上がってください」。

宇宙の誕生は、138.2億年前に、物質とエネルギーが一か所に集まった超高温・高密度の塊が爆発によって始まり、絶えず膨張し続けているというビッグバン理論は、現代物理学の説明である。これによって、誕生後の宇宙や自然の物理現象は、きれいに説明されるのであろう。しかし、ビッグバン以前の「無」の状態、すなわち 138.2億年前の前、宇宙誕生以前の状態を、どのように説明するのであろうか。物質とエネルギーの塊の存在は、時間空間発生以前の存在とすれば、その存在をどのように捉えるべきなのか。結局、理性では解くことができないアンチノミー（二律背反）の問題に落ち込んでいくのではないだろうか。

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (116)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「きわめておだやかな涙」

カラバカの男子跣足カルメル修道会の修道院は、1586年の末に創立されました。ヨハネ修士がとても望んでいたこの修道院の創立との関わりで、次のようなことが起こりました。

ある日、聖人はカラバカの女子跣足カルメル修道会でミサを行なっていました。聖体拝領の時が来たとき、ご聖体をいただくのに祭壇上であまりにも長く止まってしまいました。その修道院の院長、聖アルベルトのアンナが司式者に目をとめると、ヨハネ修士の目からとてもキラキラしたおだやかな涙が落ちているのに気づきました。

ミサが終わった後、告解室に行き、院長は彼にたずねました。

「神父様は、ミサの聖なるいけにえのところで、どうして長く止まったのですか。」すると彼は答えました。

「私はそんなに長く止まりましたか。」

「私には、そう思われます」と院長は答えました。

ヨハネ修士は、答えました。

「神は私の靈魂の中に大きなお恵みをくださいました。ですから私がしばらく止まってしまったことは、驚くべきことではありません。私たちの主は、この村に男子の修道院ができたことを大変喜ばれたのです」。

甘美で、おだやかな、静かに、輝くその涙は、感謝と慰めの詩編のようでした。



年間第 22 主日 (A)

十字架を担う意味

イエス様は十字架を担われました。御父のために自分の意思を捨てました。十字架刑から逃れることも可能でした。ゲッセマネでは、御父に頼めば天使の 12 軍団を送ってもらえると仰っています。実際、イエスは故郷ナザレで奇跡を見せず、怒った群衆が総立ちになり、彼を崖から突き落とそうとしたとき、天使たちに守られたに違いありません。ルカ福音書では「イエスは人々の間を通り抜けて立ち去られた。」とあっさり書いていますが、明らかに天使たちが働いています。

イエスが十字架から逃れるもうひとつの方法は外国に行くことです。ローマ帝国内には離散のユダヤ人がたくさんいました。パウロがやったことをイエスご自身が行っていたらどうなったでしょうか。神の愛を説き（野の花を見よ、空の鳥を見よ……明日のみ思い煩うな……）、病人を癒し、悪霊を追い出して、各地を回ったらパウロよりもずっと大きな成功を得たでしょう。しかしキリスト教は決して成立しなかったことでしょう。キリスト教が始まるには神の御独り子が全ての人のために死ななければなりません。人間の罪を赦すためにイエス・キリストがエルサレムで十字架にかけられる必要があったのです。イエズス御自身「預言者がエルサレム以外で死ぬことがありますか」と言われました。

エルサレムの神殿は神が名前を置いた場所です。神が本当にそこにいるという意味です。生きておられる神がエルサレムにいて、律法学者や祭司も大勢いて、聖書を学び、神に仕え、神の言葉もよく知っていました。神の独り子を殺したのはこれらの神をよく知ると自負していた人たちです。

私たちは自分を捨て自分の十字架を背負ってキリストに従うべきです。そしてこれはイエス御自身なさったことです。自分もしたから弟子たちに同じことを求めておられるのです。

(新井)

“兄弟があなたに対して罪を犯したなら・・・”

カトリック教会の示す生き方には多くの山があり谷があつてそんなに平坦な道ではありません。その教会の魂は聖霊ですが、その体を構成しているメンバーは全員が聖人であるわけではあり得ません。ときには教会の望ましいとする人の生き方から見ると非難される人たちもいます。“カトリックの信者なのに、どうして？”と。しかしイエスは驚かれないのです；今日の福音の中のイエスを眺めてみましょう。罪深い行いに対してどのように受け留め善処すればよいかを示してくださっています。教会に対するわたしたちの愛は現実に即したものです：イエスは罪人を救うために来てくださったのです；それなら罪をご覧になったとき驚くことがお出来になるのでしょうか。現実主義は冷淡なものではありません。神は人間の罪深さよりももっと無限に力ある方なのです。“罪がましたところには、恵みはなおいっそう満ちあふれました。”(ローマ5:20)

互いに忠告することはとても有益で大切なことです。けれども教会で罪とされていることが世間ではあまり注意されないこともあつて、兄弟への忠告は繊細な愛の心遣いを持ってする必要があります。忠告することが苦痛でないなら、それは良くない印です。相手のプライドを傷つけるような、また仕返しの際りある忠告も赦されません。忠告は真心から人を助けるためのものです。“行って、二人だけのところで忠告しなさい。”相手の非を人前で言うことは避け、ゆっくり和解の機会を探すことによって、よりよい忠告をすることができるのです。

祈りの力は日常生活において大変重要で必要です。対人関係の葛藤はわたしたちが担わねばならない最も重い十字架になりえます。心の痛みや人からの軽視が数多く蓄積され、謝罪を得ることも与えることも出来ないとき、どうすればよいのでしょうか？主に聴きましょう：祈りなさい！わたしたちと共に、わたしたちのために祈る人を集めなさい。“二人又は三人がわたしの名によって集まるところに・・・”主の望みは、祈りのうちに祈りを通して行動することです。福音を信じるカトリック教会のメンバーとして、わたしたちは奇跡が起こると信じています。時には奇跡だけが真の和解をもたらすと考えます。奇跡は、心から信じ、祈り求める人たちのところにだけ起るのでしょうか。

アッシジの聖フランシスコの祈りを一緒に唱え、自分のものとし、生きてみましょう。“主よ、わたしをあなたの平和の道具としてください：憎しみあるところに愛を、いさかいのあるところにゆるしを、分裂のあるところに一致を、疑いのあるところに信仰を、誤っているところに真理を、絶望のあるところに希望を、闇に光を、悲しみのあるところに喜びをもたらすものとしてください。慰められるよりは慰めることを、理解されるよりは理解することを、愛されるよりは愛することを、わたしが求めますように。わたしたちは与えるから受け、ゆるすからゆるされ、自分を捨てて死に、永遠のいのちをいただくのですから。アーメン”

(Sr. Paulina)

年間第24主日

(マタイ18：21-35)

今日の福音は、「ゆるし」が大きなテーマとなっています。神の国の完成へと向かって歩いて生きる私たちは、しっかりと受け止める必要があるでしょう。ここでは「兄弟がわたしに罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。」という、ペトロのイエスへの問いかけから始まってゆきます。

ペトロが7回までですか？と尋ねたのに対して、イエスは7の70倍までとペトロが予想だにしなかった数を言われます。文字通り受取り490回までなら良いと思うなら、イエスの言わんとするを見誤るでしょう。「数限りなく、何度でも赦しなさい…」とペトロに言おうとなさったのです。そしてわかりやすい様に譬え話をして下さいました。

ここでは主君、家来、仲間、仲間たちが登場します。主君から借りた1万タラント、すなわち借りた莫大なお金を払いきれない家来が、全部返しますどうか待って下さいとしきりに願う姿を、主君は「隣れに思い」赦した上、借金を帳消しにして下さいました。

その主君の隣れみを受けた家来は、自分が借りていた借金の僅か1/100を貸していた仲間がその借金を返せないと知り、その仲間が自分が王に頼んだのと同様、待ってくれとしきりに願ったのにも拘わらず、借金を返すまでと牢に入れてしまった・・・。

仲間たちは牢に入れられた仲間を不憫に思い、王に告げ、赦された家来が呼ばれます。そして王は、私が隣れんでやったように、お前も隣れんでやるべきではなかったのかと赦した家来に言われて、借金をすっかり返済するまでと、牢に入れてしまわれました。そして、イエスは最後に厳しいことをおっしゃいましたね。「心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであろう。」と。私たちがはかったのと同じ秤ではかり返されるのですね。

神から赦され、神の子とされた私たちですが、この世の旅路を歩む中、神から離れて、赦しを願って赦され、新たにされて歩む…この繰返しですね。私たちの人生の歩みは、どれほど神が隣れに思って、幾度となく赦し、恵みを与え、その恵みの中で歩んでいる歩みでしょうか。神が隣れんで下さった様に、兄弟・姉妹を隣れみ、また赦しながら、ともに歩むことができます様に。神の子として相応しい歩みを歩むことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

「私の気前よさを、ねたむのか？」

本日、私たちは「常に機会はある」ということを思い出すように呼ばれています。希望していることに最後の機会がなくなったことを受け入れるのは、一番いやな経験です。これはどんな場合にも起こります。仕事のチャンスや大学の入学等々です。一方で霊的生活では、神のためだけに生きる機会、贖われる機会はなくなりません。いつでも再び始めることができます。これは何故でしょうか。神は私たちの地上での時を神に向けて生きるようにされたからです。ですから、私たちがたとえ失敗しても、神は起き上がる力を与え続けてくださいます。そのために、ゆるしの秘蹟は非常に大切です。私たちが霊的な力という恵みを失ったときには、秘蹟、特に告解の秘蹟で取り戻すことができます。

人間的観点からだけ考えると、今回の福音での状況は不公平です。より多く働いた人は少し働いた人より多く受けとるべきです。しかし、霊的な点から見ると、すべてがお恵みであることを忘れがちです。私たちにはお恵みを要求するものは何もないのです。信仰は神のために私たちがおこなう「好意」ではなく、義務なのです。キリストは「自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならないことをしただけです。』と言いなさい」ということを私たちに思い出させてくださいます。(ルカ 17:10)

「神の寛大さを黙想することは非常に大切です」。神の寛大さは私たちに対する愛の表明です。神は私たち一人ひとりを親密に、個人的にご存知です。ある人の必要は別の人の必要より大きいことをご存知です。神がある人を別の人より愛していると考えすることは、神に対して不正です。私たちの愛と尊敬は他者のおかげです。私たちは皆同じ尊厳をもっている人間だからです。私たちの崇敬と愛は神のおかげです。何故なら神は私たちの創造主であり、先見の明のある父だからです。しかし、神は創造物に何もおかげを受けていません。神が私たちに与えてくださる全てのもは無償であり、無限の愛の実りです。神が神であることを忘れて神を人間的に扱うことは容易いことです。神がくださる一番の贈り物はお恵みです。

たびたび私たちはもの事を非常に人間的で利己的な観点から見ます。ときに他者が自分より多く持っているからということに怒ります。自分の生活の中で本当に幸福になるために一番重要なことは神のお恵みの必要を知ること、これを理解できるように神に祈りましょう。キリストに感謝しましょう、キリストの恵みと愛に心から感謝しましょう、そして他者に寛大になり、キリストに倣うように努めましょう。

(Sr. Paulina)

あらためて気が付いておどろくのですが、近頃身边に「人工知能」についてのニュースが、ずいぶんと多いように思います。

本などによると「人工知能」という言葉自体は、60年も前から使われているようですが、何といても科学技術の進歩発展は目をみはるばかりで、もしかしたらそのことに圧倒され、翻弄すらされているのは、当の私たち人間が最もであるのかもしれない。もはやいつかは「人工知能」の知能に、人間の知能は追い越されるのではないかなどという議論すらあるようです。

私自身は科学技術ということには、およそあらゆる意味で最も疎い部類に属していると思っていますが、それでも「人工知能」にはなぜかとても気持ちが惹かれ、関心が向いているのです。「人工知能」と「人間」の関係ということに深く大きく関心をもっています。

友人とも何かにつけてよく話します。80を越えたおばあさん同士の、日常のおしゃべりにすぎませんが、友人は人間のテクノロジーによって人間は滅亡すると常に言っていて、あなたがキリストに会える日は、案外と近い将来だよと、自分はキリスト者ではないのにまことしやかに宣うのです。そして、でもあなたは絶望はいつも希望と一つだからねと言い添えます。

それにしても先ごろ、純文学のジャンルにまで「人工知能」がテーマとなり、人工知能の時代に小説は如何なるもの、如何なることであるのかという論評を目にし、私たちは思いの外深みにはまっているのではないかと、人間と「人工知能」の関係はぬきさしならない深さをもってきているのではないかと、気がかりながらもますますの興味をひかれたことでした。

先日来、将棋界の藤井総太四段の連勝記録が社会現象ともいえる藤井フィーバーとなって、連日のニュースの賑わいでした。ここで一段と脚光を浴びたのが「人工知能」です。藤井四段は「人工知能」に勝てるかといった素朴なものから、ネット対局のこと、将棋ソフトによる研究のことなどなど新聞記事も満載で、私は理解などできないにもかかわらず、目につき次第読み拾いました。

そんなさなかに、殊の外感動的に心惹かれたできごとがあったのです。

藤井四段の対戦模様を実況しつつ、専門家がそれをひとつひとつ具体的に解説するというテレビ番組を見てもなしに見ていました。将棋のことなど何ひとつ皆目わからないままにです。

どうやら藤井四段の方が窮地に立っていたようなのですが、そこでの苦慮の果ての一手を打った刹那、解説者が「ひえ一つ」と悲鳴をあげたのです。

「わ一つ、そうきましたか！こんなこと誰も考えたりしないです！！」そして更にこう言ったのです。「よい子は真似をしてはいけません」。

嗚呼、どう云ったらいいのでしょうか。私はこのとき全てがわかった気がしたのです。そうか藤井四段はよい子は真似をしてはいけないことをやったのか。悲鳴を上げさせることをやったのか。

突如言いようのない深い深い親しさが私を包みました。歴大なデータの積み重ねによるものではなく、むしろ未知の遙かさからの促しと言いたい何か。

それは当然身を賭した決死のものだから、よい子は真似してはいけないのです。ああそうなのか、そういう一手をもって脱出したのか。

それは私自身身に覚えのある深く親しいもので、もしこう言っているのなら「過ぎ越し」でした。

あらためてふり返れば大昔のことですが、洗礼式を前にして「どうですか過ぎ越しできそうですか」という神父さまの声を、心の内に深く入れたとき、世界は届きようもない無限の広がりであったこと。果てなく茫々とあったこと。

底なしの孤独であったこと。

それは大昔のことであり、今現在のことであります。

「過ぎ越し」は横並びの移動ではなく「よい子」をかなぐり捨て、悲鳴を上げるような決意、行為であるはずです。身に親しく愛おしいもの一切を引きはがし、呼びかけに応じる魂の、赤裸の誠実であるはずです。

「人工知能」を時に相手として研鑽を積んだ藤井四段が、よい子は真似をしてはいけませんという一手で脱出を可能にしたことは、私にとっては希望でした。

(—— 私、将棋のことはチンプンカンプンなのに・・・スママセン)

人間は、人間の知能は、「人工」ではあり得ないものにしっかりと繋がりと包まれていて、ここは永遠に「人工」の手出しのできないところではないでしょうか。だからこそ決して失われることのない希望なのです。

主イエズス きてください ——

いのちの言葉 9月

私について来たいものは、自分を捨て、
自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。

(マタイ 16・24)

このみ言葉は、エルサレムに向かうイエスと弟子たちの様子が描かれているマタイ福音書の箇所から取られています。

イエスは、そこで初めて、自分はエルサレムで大きな苦しみを受けた後、死んで復活すると弟子たちに打ち明けます。このイエスの言葉は弟子たちにとって、どれほど不可解で、衝撃的なものだったことでしょう。

ペテロは、そんなことが起こるはずはないとイエスをいさめますが、イエスはそのペテロを厳しく叱ったあとで、弟子たちに次のように言われました。

わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい

このみ言葉は、現代の私たちにも向けられています。ここにはイエスの弟子となるために必要な2つの条件が示されているからです。

ひとつは『自分を捨てる』こと。自分の満足や、安楽な生活を優先するのではなく、他の人の必要にいつも心を向ける生き方を意味しているでしょう。

2つ目は、『自分の十字架を背負う』こと。十字架とは、自分にとって苦しみとなるすべてのことを指しています。

イエスは、苦しみを探しなさいと言っているわけではありません。ただ、人生の中で出会うあらゆる出来事や状況を、たとえ、自分が考える幸せとはまったく異なるように思えても、受け入れるよう促されているのです。

私たちも、イエスが十字架上で「なぜ？」と叫ばれたような暗闇を体験するかもしれません。

イエスの本当のお望みは、私たちが自分の殻から外に出て、他の人の幸せを願うこと、病气や、何か辛い立場におかれる時も、すべては神のご計画のうちにあるのだから、その愛に信頼することにあります。イエスご自身も、その死と復活をとおして、神と人間、そして、人間同士をひとつにするという神のご計画を成し遂げられたからです。

全人類の上にある神のご計画は、すべての人々の間に普遍的兄弟愛をもたらすことにあります。本物の弟子として私たちがイエスに従うなら、彼と共にきっと、このご計画の実現に貢献できるでしょう。

わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい

2007年5月、諸キリスト教会に属する諸運動による大きな大会がドイツで開かれました。福音の精神を共有するヨーロッパ諸国が一つになって、世界平和に貢献していくためでした。

大会の中でキアラ・ルービックは次のように語りました。
「人生の中で私たちも、イエスのような苦しみを多少なりとも体験するでしょう。そんな時、すべての苦しみをご自分のものとされたイエスを思いだして下さい。すると、その苦しみのうちにイエスご自身の存在が、はっきりと感じられます。こうして、私たちも、イエスの苦しみにあずかる者となります。

イエスは、十字架上で『なぜ?』と叫ばれたあと、『父よ、私の霊をみ手に委ねます』(ルカ 23・46)と言って、再び御父にご自分を委ねられました。

私たちも、イエスがなさったように、苦しみの中に留まらず、すぐ次の瞬間、他の人を愛したり、神がその時に望まれることを行うなら、苦しみが喜びに変わるのを体験します。

《宗教的な意味で、神のみ国をこの世にもたらすことはできても、それは現実的な問題の解決にはなりませんよ》と言われる方もいらっしゃるでしょう。でも、決してそうではありません。一人ひとりのキリスト者は、もう一人のキリストですから、その神秘体の一員として、科学、芸術、政治、マスメディアなど、社会のあらゆる分野に貢献することができます。さらに、キリストのうちに他の人と協力して働くなら、もっと大きな成果をもたらすこともできるでしょう。

こうして、現代社会の中に『復活の文化』とも言える、新しい人類による新しい文化が少しずつ芽生えてくると私は信じています¹と。

レティツィア・マグリののちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

いのちの言葉の集い

関東 9月10日(日) 13:30~ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室
(週日に、調布、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 9月10日(日) 14:00~ 瀬戸市みずの坂 サポートハウスゆうや

長崎 9月24日(日) 11:00~ カトリック浦上教会 要理教室

連絡先: フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: conil157ch1.wix.com/focolare-jp

¹ キアラ・ルービック、交わりの文化 - 『共にヨーロッパのために』 2007年5月12日ドイツ、シュツットガルト国際大会にて

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

2017年7月30日

跣足カルメル修道会 元総長フェリペ・サインツ・デ・バランダ神父の 逝去に際し ザベリオ カニストラ総長の書簡

フェリペ総長は私たちのもとから去って行かれました。高齢で健康に多少問題があったにせよ、とても元気でしたので、彼がこのように突然去って行かれるとはまったく予想しておりませんでした。

初めて総長にお会いした時のことを忘れることはできません。ちょうど私はカルメル会に入ったばかりで、フィレンツェで志願者でした。フェリペ総長はその女子カルメル会修道院の誓願式を司式するために来ておられました。彼の力強い声、堂々とした風格、すべては真の総長であることを示していました。しかし同時に私たちは、彼のうちに単純さと私達や姉妹達との兄弟的な親しい交わりを見出しました。フェリペ総長と一緒にだったので、私たちは姉妹達の禁域に入ることができました。その時、彼は小さいポットや平鍋について姉妹たちに冗談を言って笑わせていました。彼は、修道院の修室にただよう神聖で侵しがたい神秘的なたたずまいの中でも、どのように兄弟的で家族的な雰囲気醸し出すかを知っていました。

家族の父親としてのこの最初の印象は、あらゆることから——私はその後、幸い知ることができたのですが——初めは副総長として、後に総長として、総長館にいた18年間の疲れを知らない働きから、確認することができました。彼の存在は、今日に至るまで、カルメル会の統治と生活に消すことのできない足跡を残したと言えます。この数年、私たちは、フェリペ総長が総長であった時期に承認され改訂された「会憲」を再読しています。また彼の統治の時期に、会の宣教、特にアフリカでの宣教に拍車がかかりました。また若者たちのための養成の家のことは、常にフェリペ総長の念頭にあり、彼は様々な国々で養成の家を創立するために熱心に働きかけました。総長としての二期目が終わった時、フェリペ総長が、ウルグアイへ移動するよう要請されたのは偶然のことではありません。彼はその地で修練長を長年勤め、その奉仕に今までのすべての経験と知識を注ぎ込みました。

跣足カルメル修道会HP (International)

私たちは皆、フェリペ総長が担わなければならなかった大変重い十字架が姉妹達の「会憲」であったこと、1991年に認可されたこの文書が彼の苦悩と闘いと涙の結晶であったことをよく知っています。

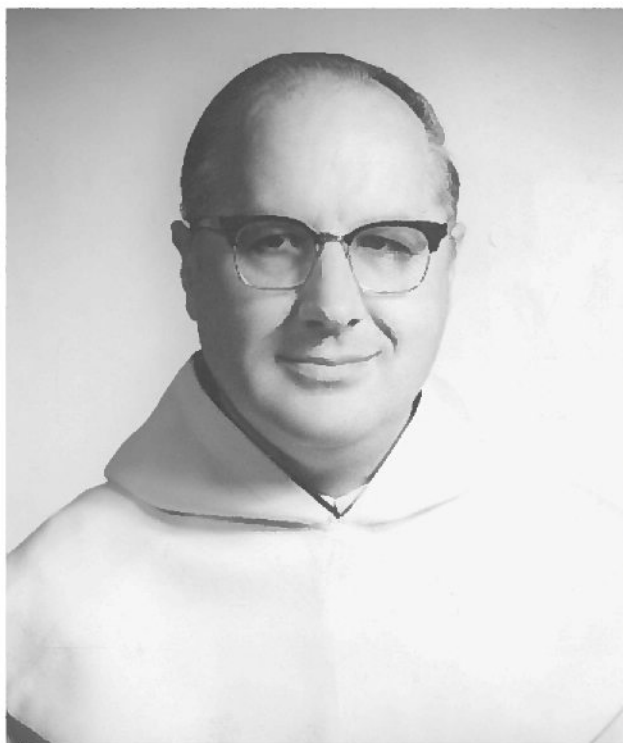
カルメルの姉妹達への彼の情愛や愛深い献身は、ラテン・アメリカの多くの修道院の贖罪司祭や顧問という形で、その生涯の終わりまで続けられました。

フェリペ総長、あなたの旅立ちは残された私たちを悲しませ寂しくさせます。でも私たちは、今とても必要としているあなたの友情と力に、さらにより頼むことができると分かっています。あなたは、私たちに偉大な遺産、私たち家族と全教会への真の愛を残してくださいました。

フェリペ総長、本当にありがとうございました。私たちは、あなたを決して忘れません。

跣足カルメル修道会

総長 ザビエル カニストゥラ 神父, OCD



糸巻き棒からペンへ(23)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD



彼女の著作は、テレジアという人間の忠実な反映であり、彼女を知る上で最上の道です。彼女はこのことを意識しており、実際、『自叙伝』の原稿をガルシア・デ・トレド神父に送る時、こう請け合っています。「ここに私の靈魂をあなたにゆだねます」と。またドーニャ・ルイサ・デ・セルダに、原稿に関する情報を知らせてほしいと書いた時も、「私の靈魂をゆだねたのですから、責任を果たすのをやめさせないでください」と言っています。

しかしながら、よく言われているように、テレジアは、作品を編集する際にはあまり努力せずに、大した注意も張ら払わずに、自由奔放に書いたという――過去の時代に何度も繰り返し指摘された――偏見を支持し続けることは、今日ではできません。彼女が技巧的な言い回しを使わず、「平易さや明確さ」を好んだということは、確かです。また時々、下書きも使わなかったこと、書いたものを校正する時間がなかったということも事実です。けれども、いくつかの象徴はきわめて練られたものであり、いくつかの論述（たとえば『自叙伝』や『完徳の道』、部分的には『雅歌講話』も）は完全に書き直されたということを見無視すべきではないでしょう。さらに、（父方がユダヤ人の家系であることや、セビリヤやヴァヤドリッドでの異端審問所の裁判のことなど）論争的テーマに関して重要な空白があること、また女であるにもかかわらず敢えて叙述するということに対し、繰り返し弁明し、正当化していることなども、一見、何でもないかのように見えますが、それほど単純な事柄ではないことを暗示しています。

テレジアは、自分自身のために書いているのではなく、他の人々に読まれるために書いています。聴罪司祭や相談相手のために。修道女のために。友情のために。彼女が伝えたいと思っている、広範囲の見知らぬ人々のために。それゆえ、祈りの体験を物語る時、言いたいことに対して、あるいは言うことができないことや公けに言うべきでないことに対して、大変注意を払っています。彼女の考えを理解するには、本の中で語っていることだけでなく、沈黙していることも重要です。この空白は、ある程度、彼女のたくさんの手紙が補完してくれます。



最新刊のご案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

カルメル誌 新刊案内



2017年 夏号 No.365

《今年の特集 三位一体のエリザベトの霊性》
 三位一体のエリザベトにおける「人間の召命」(2) 九里彰
 三位一体のエリザベトに影響を与えた霊性家(2) 松田浩一
 —十字架のヨハネ 須沢かおり
 三位一体のエリザベトが遺したものの(2) 原 造
 風に吹かれて(12)—成長記録— 伊従信子
 フランス便り(2)ひな菊バカレットの咲くころ 遠藤周作の文学とテレーズの霊性(1)
 —あなたも呼ばれています、“聖なるもの”になるように— 遠藤周作とテレーズ
 片山はるひ
 道元の霊性に学ぶ(2)—小さなものの霊性 田畑邦治
 神がいつくしまれた道(14) 奥村一郎



特集号「三位一体の聖エリザベトの祈り」
 —現代人へのメッセージ—

エリザベトと共に生きる—永遠の光のもとで 片山はるひ
 続・歴史の中の三位一体のエリザベト 大瀬高司
 三位一体のエリザベトにおける苦しみの神秘 九里彰
 三位一体のエリザベトによる
 「聖書に基づくキリスト中心の生活」
 ポーリン・フェルナンデス
 父と子と聖霊の唯一の神を信じる
 —三位一体のエリザベトと共に 松田浩一

ご案内

1冊 460円 A5サイズ 50~70ページ

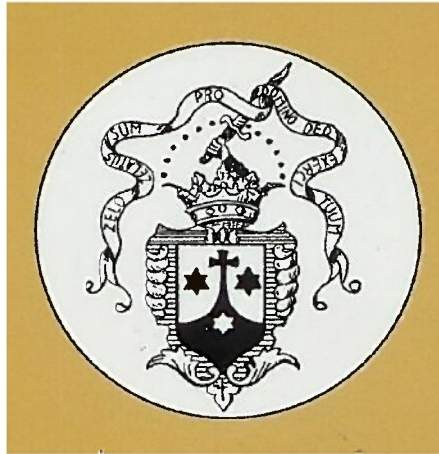
サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会
 信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、600円【460円(+送料140円)】程度の献金を
 下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬
 +特集号 計 3,000円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会
 お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

上野毛霊性センター(東京) 2017年9月～2018年3月

黙想企画 **上野毛聖テレジア修道院(黙想)**

1. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2017年12月24日(日)～25日(月)朝食《講話なし、夕食なし》

2. 日帰り一日黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

2017年

9/7(木) 10/6(金) 11/10(金) 11/30(木)

12/7(木) 12/22(金)

2018年

1/11(木) 1/26(金) 2/8(木) 2/23(金) 3/8(木) 3/23(金)

*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

3. 奉獻生活者のための黙想会

2017年

12月27日(水) 17時～2018年1月5日(金) 朝 福田正範神父

4. 奉獻生活者ならびに一般信徒のための黙想会

2017年

10月10日(火) 17時～10月19日(木) 朝 福田正範神父

5. 青年黙想会(男女) 35歳位まで

2018年

2月10日(土) 16時～12日(月) 16時 カルメル会士

6. 召命黙想会(男女) 40歳位まで

2017年

11月3日(金) 16時～5日(日) 16時 カルメル会士

7. 四旬節黙想会 (テーマ: ゆるしの喜び)

2017年

3月 18日(土) 18時夕食～20日(月) 16時

福田正範神父

8. 特別黙想会 S r. 伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ)

2017年

12月8日(金) 20時～10日(日) 16時



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、カルメル会霊性センターニュース、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

[Tel:03-5706-7355](tel:03-5706-7355) Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

***** 日帰り黙想会 *****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことは☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニモは言いました。

第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように……。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

* 午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時：2017年 9月7日(木) 午後1時30分～4時

* 9月21日より変更

10月6日(金) //

* 10月27日より変更

11月10日(金) //

11月30日(木) //

12月 7日(木) //



お問合せ・お申込み：

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

《2017年 名古屋一日静修》

三位一体の聖エリザベトの祈り

— 現代人へのメッセージ —

9月23日（土）午前10時～午後4時

講師 片山はるひ氏

「エリザベトと共に生きる

— 永遠の光の もとで —

場所 カトリック日比野教会 信徒会館

（地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約5分）

参加費 1000円

持ち物 聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当

申込み 下記いずれかの方法でお申込み下さい。

FAX / 0568 - 62 - 5167

E-mail / seisyuu_2015@yahoo.co.jp

ハガキ / 〒484-0076 犬山市橋爪一丁田 1-26

「名古屋一日静修」係り



2017年度日程と講師「テーマ」

✧ 11月25日（土）Sr. ポーリン・フェルナンデス
「三位一体のエリザベトによる
『聖書に基づくキリスト中心の生活』」

《特別黙想会》

日時：2017年12月9日（土）～10日（日）
16時半受付～翌日16時

「三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘」

指導司祭：九里彰神父

申込み：宇治聖テレジア修道院（黙想）

Tel：0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

プログラム

9：45 受付
10：00 導入の祈り（聖堂）
10：20 第一講話（信徒会館）
11：30 念 禱 ＊
12：00 昼 食（信徒会館）
12：30 念 禱 ＊
13：00 第二講話
14：00 念 禱
14：30 ミ サ（聖堂）
15：30 茶話会（信徒会館）
16：00 終了の祈り

*希望者は赦しの秘跡または
面接を受ける事ができます

宇治カルメル会 2017年 黙想会案内

【一般のための黙想】

・1泊2日 10月7日(土)～8日(日) テレーズと共に生きる 中川博道神父
(午後5時～午後4時)

【聖書深読黙想会】

(午前10時～午後4時) 11月25日(土) 中川博道神父

【水曜の黙想】

(午前10時～午後4時) 9月6日(水) 嵐の中で試される信仰 Sr.ロサ
10月18日(水) ロザリオを生きる 中川博道神父
11月29日(水) 「ラウダート・シ」を生きる 中川博道神父
12月13日(水) 三位一体の聖エリザベトと三位一体の神 九里彰神父

【生活の中での霊的同伴】

・1泊2日(金)夕食なし 9月1日(金)～2日(土) 九里彰神父
(午後8時～午後3時) 11月24日(金)～25日(土)

【聖テレーズの黙想】

(午後5時～午後4時) 9月30日(土)～10月1日(日) 中川博道神父

【特別黙想会—三位一体の聖エリザベトの祈り—】

・1泊2日 12月9日(土)～10日(日) 三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘 九里彰神父
(午後4時半～午後4時)

【青年の集いin Uji】 高校生以上35歳まで

(午前10時～午後4時半) 9月9日(金) 「わたしは誰？」 中川博道神父
11月3日(金) 中川博道神父

【待降節の黙想】

(午後5時～午後4時) 12月2日(土)～3日(日) 受肉の神秘 九里彰神父

【奉獻生活者の黙想】

(午後5時～午前9時) 11月7日(火)～16日(木) 中川博道神父
12月27日(水)～1月5日(金) 九里彰神父

【English Retreat】

(10am to 4pm) 11月18日(土) A pilgrimage to Jerusalem with Magi Sr.Rosa

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
12月24日(日)～25日(月) (講話なし、各食事つき)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしく願いいたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：7205805
名義：男子洗足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：56845391
名義：男子洗足カルメル修道会



男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel：052-571-1558 Fax：052-681-6445

『生活の中での靈的同伴』

—日常を神と共に—

すでに神とともにあるのですから、天国はこの地上で始まっているのです。」(三位一体の聖エリザベト)

9月1日(金)

午後8:00 集合

8:30 オリエンテーション

9:00 聖母マリアへの連祷、寝る前の祈り(教会の祈り)

10:30 就寝

9月2日(土)

午前6:30 起床

7:00 お告げの祈り

ミサ(聖母の土曜日)

7:45 朝食

8:50 昼の祈り①(教会の祈り)

《9:00~11:40 個別面談》原則、一人40分

11:50 昼の祈り②(イエスのみ名の祈り)、お告げの祈り

12:00 昼食

午後 《13:20~14:00 個別面談》

14:10 聖体賛美式

(1. 入祭、聖体顕示 2. 聖書朗読、黙想 3. 賛美、祈願 4. 祝福、閉祭)

15:00 解散

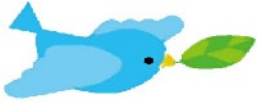


- ~~~~~
1. 祈りに潜心しながら、「沈黙」を守りましょう。
 2. 黙想の家は、神さまとあなただけの空間です。
(食堂にはミネラルウォーター、コーヒー等の飲み物、お菓子等が用意されています。)
 3. 自由時間は、聖堂を自由にご利用ください。
散歩も自由ですが、修道院の外に出ることは控えた方が良いでしょう。
 4. その他、質問や緊急なことがありましたら、受付のシスターか私(Fr.九里)までお申し出ください。
 5. 3時の解散までに、帰り支度を整えておいてください。

主キリストとの交わりを真に深めることができるよう、聖霊の光、導きを願いましょう。

青年の集い in Uji

……立ち止まって、聴いてみる……



『わたしは誰?』

……“人とは何か?” があらためて問われる時代に……

2017年9月9日 10:00~16:30

対象：高校生以上 35歳までの男女

参加費：500円

申し込み・連絡先：TEL 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

スタッフ：Fr.中川博道、Br.原造（カルメル会）

Sr.ローザ、Sr.マイラ（カルメル宣教修道女会）

宇治カルメル会 幼きイエスの聖テレジア修道院（黙想）

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
慈しみ深き会
マリアポリ (フォコラーレ)

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2017年予定

T1	03/12 (日) -03/18 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
K2	03/27 (日) -04/01 (土)	東京小金井・聖霊会
N1	05/07 (日) -05/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
K2	06/11 (日) -06/17 (土)	東京小金井・聖霊会
T2	07/02 (日) -07/08 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
T3	09/03 (日) -09/09 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
N2	10/10 (火) -10/16 (月)	滋賀唐崎・ノートルダム
K3	11/05 (日) -11/11 (土)	東京小金井・聖霊会
T4	12/03 (日) -12/09 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ

2018年予定

K1	05/06 (日) -05/12 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
K2	10/07 (日) -10/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム

真命山

祈りの集い

年間のテーマ

山上の教え

2017



年度行事のご案内

祈りの集い(10時～15:00時)

- 1月12日 幸せの道・イエスの山上の垂訓 (マタイ5・7)
- 2月9日 心の貧しい人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。(マタイ5・3)
- 3月9日 柔和な人々は、幸せである、その人たちは地を受け継ぐ。(マタイ5・4)
- 4月20日 悲しむ人々は、幸せである、その人たちは慰められる。(マタイ5・5)
- 5月11日 義に飢え渴く人々は、幸せである、その人たちは満たされる。(マタイ5・6)
- 6月8日 憐れみ深い人々は、幸せである、その人たちは憐れみを受ける。(マタイ5・7)
- 7月13日 心の清い人々は、幸せである、その人たちは神を見る。(マタイ5・8)
- 8月 休み
- 9月14日 平和を実現する人々は、幸せである。その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイ5・9)
- 10月12日 義のために迫害される人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。(マタイ5・10)
- 11月9日 幸いなのは、神の言葉を聞き、それを守る人たちである。(ルカ11・27・28)
- 12月14日 見ないのに信する者は、幸いである。(ヨハネ20・29)

指導者 口ッコ 神父

※ 個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

講話と祈りの集い *Special*

～リジューの聖テレーズと共に～

2017年9月30日(土)

午後2時～午後6時30分

講話（伊従 信子）・祈り・質問&分かち合い

祈りの夕べ（片山 はるひ）・軽食

参加費 500円

場所：ノートルダム・ド・ヴィ（上石神井）

途中参加出来ます

※定員 先着 60名までとさせていただきます



リジューの聖テレーズの祝日(10月1日)を記念し
共に祈り、分かち合う ひと時をご一緒に過ごしませんか？



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>
★申込み受付・開始日の8日前で締切ります

コース	日時	指導者	開催場所	申込み
サダナⅡ	9/14(木) 17:30- 18(日) 16:00	Frマルコ・ アントニオ Fr植栗	ラ・サール会仙台修道 院 (仙台市宮城野区)	松本由美子 Tel.070-6950-4199
入門A	10/1(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	来間(くるま)裕美子※ Tel.090-5325-2518 045-577-0740
宝塚リピー ターの会	10/6(金) 17:30- 9(月) 16:00	Fr植栗	女子御受難会修道院 (宝塚市)	上田正美 Tel.090-5651-6495
サダナⅠ	10/26(木) 17:30- 29(月) 16:00	Fr植栗	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター 受付デスク Tel.082-239-0034
サダナⅠ & アドバンス	11/2(木) 17:30- 5(日) 16:00	Fr植栗	浜松三ヶ日研修センタ ー(浜松市)	来間(くるま)裕美子※
入門B	11/19(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
サダナⅡ	11/22(水)17:30- 26(日) 16:00	Fr植栗	カルメル修道会上野毛 修道院(黙想の家) (世田谷区上野毛)	同上
フォローアップ	12/3(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナⅠ (入門A. B. C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と
「心の解放」をめざす。

◆サダナⅡ

Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わり
のもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナⅠを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2017年 5月 6日(土)～ 5月14日(日)
- ② 8月14日(月)～ 8月22日(火)
- ③ 10月 9日(月)～ 10月17日(火)
- ④ 12月27日(水)～ 2018年1月 4日(木)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2017年 2月 3日(金)～ 2月5日(日)
- ② 2月24日(金)～ 2月26日(日)
- ③ 3月17日(金)～ 3月19日(日)
- ④ 6月16日(金)～ 6月18日(日)
- ⑤ 7月14日(金)～ 7月16日(日)
- ⑥ 9月15日(金)～ 9月17日(日)
- ⑦ 11月17日(金)～11月19日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2017年 5月30日(火)～6月7日(水) 阿部 仲麻呂 師 (サゾウ会)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

希望への道

2017年度 女子青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	4月22日(土)～23日(日)	なぜそのようなことがあり得ますでしょうか。	山内十束師(ご受難会)
2	6月10日(土)～11日(日)	おことばのとおり、この身になりますように。	山内十束師(ご受難会)
3	11月11日(土)～12日(日)	神は卑しいはしためを顧みられた。	山内十束師(ご受難会)
4	2月17日(土)～18日(日)	心に納めて、思い巡らす。	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

希望への道

—神は卑しいはしためを顧みられた—

2017年度 第3回 女子青年黙想会

日時： 11月11日 (土) 15:00 ～

12日 (日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2017年11月5日 (日) まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー 下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2017年度: 理性と神認識ー古代と中世において
夏学期: 9/2、9/9、9/16

●神学読書会

第2・第4木曜日: 18時-20時
上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と神学に関する文章を読んで、話し合います。
4月27日から。但し祝日、8月全体は休み。

・ミサ: 上記読書会後20時-20時45分 クルトウルハイム1F右聖テレジア小聖堂どなたでも。

●黙想

- ・「会社帰りの黙想」
毎月第2・第4火曜日 18時45分-20時
聖イグナチオ教会マリア中聖堂
4月25日から。但し祝日、8月全体は休み。
- ・「通う霊草」
8月26日(土)-9月3日(日)18時-20時45分
上智大学内クルトウルハイム聖堂

・「黙想会」

11月11日(土)-12日(日)(上石神井)
2018年 3月17日(土)-18日(日)(上石神井)
1泊2日。申込の締切りは、初日の10日前。
[関西] 9月30日(土)13時30分-10月1日(日)15時
(宝塚黙想の家)。Tel.0797-84-7863 (Sr.田中)。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分-16時 上智大学内
S.J.ハウス、第5応接室。講話、黙想、ミサがあります。
2017年
9月16日、10月14日、11月25日
2018年
1月20日、2月17日

・ロザリオの祈り

(上記同日のミサに続いて)16時10分 -16時50分

●坐禅会

・第1、第3月曜日: 18時00分-20時00分
上智大学内クルトウルハイム1階左の部屋。2回坐り、間に講話。
(5月15日から。但し祝日、8月全体、12月25日は休み)

●坐禅接心

11月1日(水) 20時20分-5日(日) 8時30分
秋川神冥窟。1泊 2,400円(+暖房費)程度。
事前申込み要。

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ
(14時-18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
10月21日(土)
2018年 1月27日(土)

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2017年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 9/01 イエスの死—その救済的意義
(上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂)
- 9/08 聖書のイエス像—ヨハネとパウロの見た
イエス
- 9/15 イエスの復活—今に生きるイエス
- 9/22 聖霊—神の愛に導かれる
- 9/29 祈りの本質とさまざまな祈り方—神と関わ
る
- 10/06 洗礼と堅信—イエスに結ばれて生きる
- 10/13 教会の成立と意味—イエスを中心に集う
- 10/20 人間としてのイエス—新しい人間像の基
礎づけ
- 10/27 御子としてのイエス—神との関係
- 11/10 父と子と聖霊—神の生命に与る
- 11/11-12 ●黙想会(上石神井)
- 11/17 信仰の決断—支えられて生きる
- 11/24 ミサ祭儀—神への奉仕と生活の糧
- 12/01 自己実現と神の意志—生き方の規範
- 12/08 人間の弱さ—罪とは何か
- 12/15 恵みとゆるし—神の憐れみを受ける
- 12/22 愛の心—キリスト教の本質
- 12/23 ◆クリスマスのみサ(14時、上智大学内クル
トゥルハイム2階聖堂、定員80人)
- 12/25 ●クリスマス黙想(18時50分-20時10分、
聖イグナチオ教会マリア中聖堂、予定)

キリスト教理解講座 2017年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [倫理的行為]
- 8/26-9/03 ●通う霊操(18時-20時45分)
(上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂)
- 9/5 人間の弱さ—罪とゆるし
- 9/19 有意義に生きる基盤—信仰と希望
- [根本的態度]
- 10/03 唯一の掟—愛による完成
- 10/17 基本的な徳—判断力・勇気・節制
- 11/07 共同存在—共通善・正義・奉仕
- 11/11-12 ●黙想会(上石神井)
- 11/21 個人の道—自己の課題と聖霊の導き
- 12/05 対人関係と友愛—恵みである他者
- 12/19 身体と生命—性と倫理
- 12/23 ■クリスマスのみサ(14時、上智大学内クル
トゥルハイム2F、80人限定)
- 12/25 ●クリスマス黙想(18時55分、聖イグナ
チオ教会マリア中聖堂、予定)

《場所・お問い合わせ》
聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール TEL 03・3263・4584
クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

【2016年予定】

~~12月15日(木)『霊の賛歌』第5回目：第3の歌 終了~~

【2017年予定】

1月19日(木)『霊の賛歌』第6回目：第4～5の歌 終了

3月16日(木)『霊の賛歌』第7回目：第6の歌 終了

5月25日(木)『霊の賛歌』第8回目：第7の歌 終了

7月20日(木)『霊の賛歌』第9回目：第8の歌 終了

9月21日(木)『霊の賛歌』第10回目：第9の歌

11月16日(木)『霊の賛歌』第11回目：第10の歌

12月21日(木)『霊の賛歌』第12回目：第11の歌

* 参加費無料（献金歓迎）

* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）



<<特別黙想会>>

日時：2017年12月16日(土) 4時半受付～17日(日) 午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘」

指導司祭：九里彰神父

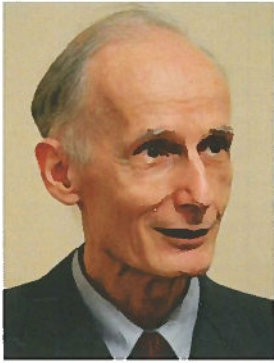
申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価(本体+税)
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓けて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学の人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

http://www.chisen.co.jp

申込書

代表者氏名 _____
 代表者住所 _____
 連絡先 Tel. _____
 E-Mail _____

★性別・宿泊・食事欄は必要な箇所に○印をつけてください。

名前	性別	年齢	備考	食事
	男		10日	夕
	・女		11日	朝食
			12日	朝食
	男		10日	夕
	・女		11日	朝食
			12日	朝食
	男		10日	夕
	・女		11日	朝食
			12日	朝食
	男		10日	夕
	・女		11日	朝食
			12日	朝食

振込金額

参加費	人分	円
献 金	他の方への支援献金・会場費等のため	円
振込額		円

申込書は切り取らずにFAX か メール でお申し込みください。

参加費

- ◆宿泊される方
- 1泊2日 (夕食1・宿泊1・朝食1)
 大人 7,000円
 中・高校生 6,000円
 小学生 5,000円
 未就学児 1,500円
- 2泊3日 (夕食2・宿泊2・朝食2)
 大人 14,000円
 中・高校生 12,000円
 小学生 10,000円
 未就学児 3,000円
- ◆宿泊されない方
- 大人のみ 1,000円
- 夕食
 大人 1,080円
 小学生 864円
 幼児 540円

※朝食、夕食をご希望の方は予め申込みが必要です。

参加費に昼食代は含まれていません。昼食は個々に施設内のレストランを利用していただきます。(衛生上持参はできません) 産食や井ものなど、多彩なメニュー(550円~800円程度)からお好きなものを選んでお召し上がりください。

★レストラン利用者数を把握しておくため、申込書の食事欄には記入を忘れずにお願いたします。

◆申込締切◆

2017年9月30日(土)

◆振込口座◆

三菱東京UFJ銀行 西荻窪駅前支店
 (普通) 0951732 フォコローレ会 代表者 黒川真理子
 ※参加費についてのお問い合わせは、フォコローレまで……

＜キャンセル料＞

不泊100%、当日100%、前日80%、9日前20%、20日前10%
 食事：当日80%、前日20%



プログラム

11月10日(金) 《事前準備会》

みんなでマリアポリを作りましょう!!

- 15:00~17:00 出合いの交わり【101 研修室】
- 18:00~19:00 夕食【宿泊棟レストラン】
- 19:30~21:00 マリアポリを始めるための
心と場研の準備【大会議室】

11月11日(土)

- 7:00~ 8:30 朝食【宿泊棟レストラン】
- 10:00~10:40 プログラム①【大会議室】

朝のつどい

※子どもたちは別プログラムがあります
11:00~12:00 祈りの時間

<ミサ(司式：梅村司教様)>

- 12:00~13:30 昼食【宿泊棟レストラン】
- 14:00~17:00 プログラム②【大会議室】
- 午後のつどいと自然散策
- 18:00~19:00 夕食【宿泊棟レストラン】
- 19:30~20:30 プログラム③【大会議室】
- 夜のつどい

11月12日(日)

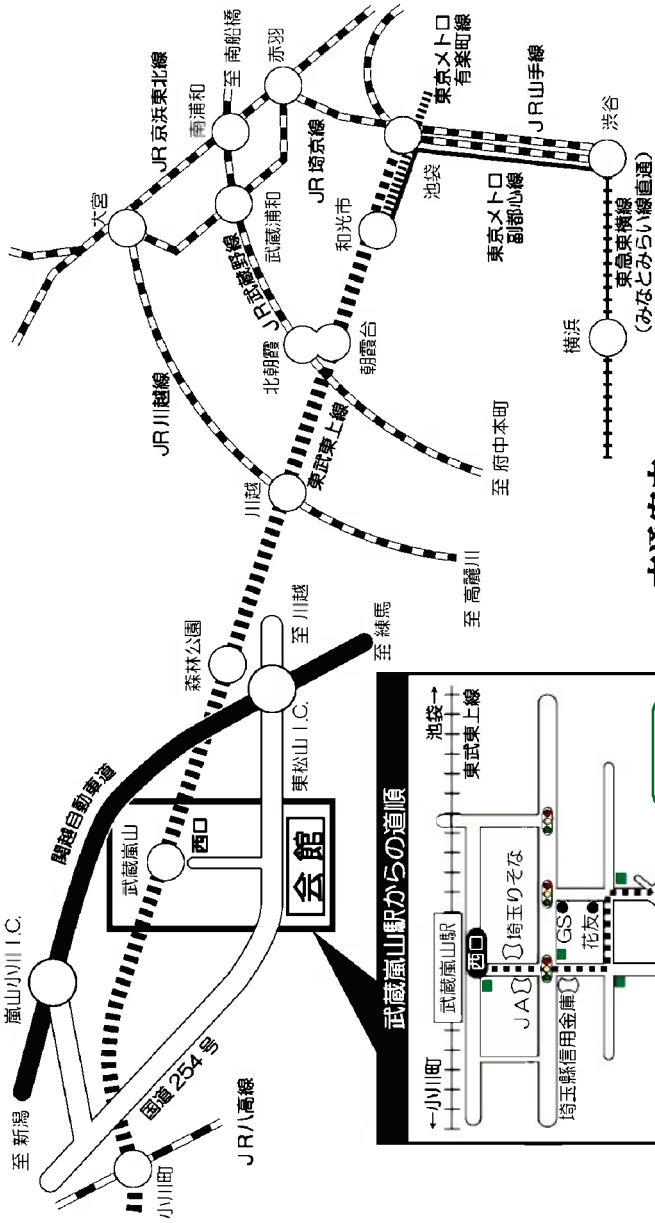
- 7:00~ 8:30 朝食【宿泊棟レストラン】
- 9:00~10:30 プログラム④【110 研修室】
- 朝のつどい
- 11:00~12:00 祈りの時間
- 12:00~13:30 昼食【宿泊棟レストラン】
- 14:00~16:00 プログラム⑤【110 研修室】

明日に向けて

※ プログラムは事情により変更することがあります。



マリアポリ会場へのご案内



交通案内

- **池袋駅**から東武東上線 武蔵嵐山駅まで
急行で約65分 駅からは徒歩で約15分です。
- **川越駅**から東武東上線 武蔵嵐山駅まで
急行で約31分です。
- ★ 羽田空港から川越駅まではリムジンバス
で約100分です。
- **横浜駅**からは東急東横線～東武東上線
直通のFライナーに乗り途中森林公園駅で
のりかえて武蔵嵐山駅まで約2時間です。
- **お車**で関越自動車道を東松山 IC 降りて
国道254号線を通って約15分です。

※ 到着しましたら、各研修室まで直接お越しください。

四季の移ろいを楽しめる緑豊かな場所です。

※ タオル、バスタオル、ハブラジは備え付けがあります

と き： 11月10日(金)～12日(日)

ばしよ： **国立女性教育会館**

埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728

TEL 0493-62-6711

<https://www.n.wec-bs.jp/>



霊性センターニュース

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からのお申込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）
この場合、ご希望の月数×250円程度の献金を頂ければ幸いです。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
宇治カルメル会修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：下記口座宛まで
なお通信欄へ「郵送希望」、またはご希望の月号や冊数をご記入下さい
*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel:0774-32-7456 Fax: 0774-32-7457

「霊性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「霊性センターニュース」は、7月より、宇治霊性センター事務局で編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

宇治修道院は、ご存じの方も多いと思うが、緑の木々に囲まれ、恵まれた自然環境の中にある。先月、いつものように、台所で立って朝食を取っていた時のこと(カルメル会の伝統)。朝から激しく蝉が鳴いている。「何匹鳴いているのだろう」と誰かがつぶやく。「八百二十三匹」と他の者が答える。B 修道士が「アッ、何も聞こえない」と叫ぶ。もちろん、嘘!

私が補聴器を付けている A 修道士に、「A さん、蝉の声、聞こえる?」と尋ねると、A 修道士、「エッ、天の声?」。思わずずっこけたが、気を取り直して、「天の声も聞こえなくてはいけないけど、蝉の声、聞こえる?」。「聞こえるよ!」と A 修道士。すかさず B 修道士、「早く来い、って天の声が言ってるよ!」。

アモール・デル・フラテッロ アモール・デル・コルテッロ

(Amor del fratello, amor del coltello 兄弟の愛は、ナイフの愛)

(P.九里)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ
一冊 100 円程度の献金をお願い致します



製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本/発送を、7月号より宇治修道院で行うことになりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。

皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

10月号の製本/発送日 **9月25日(月) 午前9時半頃から**

宇治修道院信徒会館

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

霊性センター事務局 ☎0774-32-7456